

GRADUATE SCHOOL OF STUDIES IN HUMAN CULTURE

OTSUMA WOMEN'S GRADUATE SCHOOL

大学院案内 2024

人間生活科学専攻

Studies in Human Life Sciences

言語文化学専攻

Studies in Language and Culture

現代社会研究専攻

Studies in Contemporary Society

臨床心理学専攻

Studies in Clinical Psychology



OTSUMA WOMEN'S GRADUATE SCHOOL

大妻女子大学大学院

人間文化研究科

人間文化研究科

GRADUATE SCHOOL OF STUDIES IN HUMAN CULTURE

CONTENTS

P. 01	ごあいさつ	P. 09	言語文化専攻	P. 15	人間文化研究科 3つのポリシー
P. 03	大学院の学び	P. 11	現代社会研究専攻	P. 17	学費・奨学金
P. 05	修了後の進路	P. 13	臨床心理学専攻	P. 18	入学試験・進学説明会日程
P. 07	人間生活科学専攻				

MESSAGE FROM ITOH Masanao

キャリアに生きる 高度な教育研究の空間

大妻女子大学 学長 伊藤 正直



本学の大学院人間文化研究科は、人間生活科学、言語文化、現代社会研究、臨床心理学の4専攻から成り立っています。人間生活のさまざまな領域に関わる諸問題を、それぞれの専門性と総合性という観点から把握しようとするを大学院では目指しています。それゆえ、各専攻のカリキュラムは、領域横断的に構成されており、高度な専門職業人を志望する人から専門研究者志望の人まで、多様な

ニーズに応えるように工夫されています。他大学院との単位互換制度もあり、専門的な資格の取得を可能にするプログラムも数多く用意されています。また、各種の奨学金制度を設けているほか、共同研究への研究費助成も行うなど、大学院生の研究活動に対する支援にも留意しています。学びへの強い意欲を持った方たちが、本研究科に加わってくださることを期待します。

MESSAGE FROM TANAKA Naoko

領域横断型の研究科で 自立への羽ばたきを

大妻女子大学大学院 人間文化研究科長 田中 直子



本学の大学院人間文化研究科は、生活科学、人文学、社会学、心理学などの幅広い領域で活躍する総勢100人を超える教員からなる総合研究科です。教員個々の専門性を生かしつつ、教員・学生のさまざまな相互作用を通して研究領域の壁を超えた教育・研究を目指す領域横断型の研究科です。4つの専攻では、人間生活科学専攻(修士課程と博士後期課程)に約100講座、言語文化専攻(修士課程と博士後期課程)に約130講座、現代社会学専攻(修士課程)に約

50講座、臨床心理学専攻(修士課程)に約30講座が用意され、専攻ごとに取得できる資格なども用意されています。人間文化研究科では多様な方々が学んでいます。大妻女子大学から進学する方、他大学から進学する方、これまでの仕事を研究という視点でまとめようとしている方、新しいチャレンジをしようとしている方、そして男性も多く学んでいます。あなたもぜひ本学大学院で学び、自立への羽ばたきをしてください。

歴史・沿革

- 1972 ▶▶ 家政学部を基礎として家政学専攻(修士課程)ならびに文学部を基礎として文学研究科国文学専攻(修士課程)および英文学専攻(修士課程)を設置
- 1977 ▶▶ 家政学研究科に児童学専攻(修士課程)を増設
- 1980 ▶▶ 家政学研究科に被服学専攻(修士課程)を増設
- 1981 ▶▶ 人間生活科学研究所を設置
- 1982 ▶▶ 家政学研究科に、被服学専攻(修士課程)および人間生活科学研究所を基礎に児童学専攻の関連分野を組み入れた被服環境学専攻(博士後期課程)を増設
- 1995 ▶▶ 家政学研究科被服環境学専攻(博士後期課程)を家政学研究科人間生活学専攻(博士後期課程)に名称変更・改組
▶▶ 文学研究科国文学専攻(博士後期課程)・英文学専攻(博士後期課程)を増設および社会情報研究科社会生活情報専攻(修士課程)を設置
- 2002 ▶▶ 人間関係学部を基礎として人間関係学専攻(修士課程)・臨床心理学専攻(修士課程)を設置
- 2005 ▶▶ 人間関係学専攻(修士課程)を臨床心理学専攻(修士課程)に名称変更
- 2008 ▶▶ 人間生活科学研究科を人間生活文化研究所に名称変更・改組
- 2010 ▶▶ 家政学研究科、文学研究科、社会情報研究科および人間関係学専攻(修士課程)を統合し、人間文化研究科に改組
- 2014 ▶▶ 人間文化研究科言語文化専攻に国際文化専攻(博士後期課程)を増設
- 2018 ▶▶ 人間生活科学専攻(修士課程)児童発達臨床学専攻を保育・教育学専攻に名称変更
- 2021 ▶▶ 人間生活科学専攻(博士後期課程)生活人間学専攻、臨床人間学専攻、生活計画学専攻、生活素材学専攻を健康・栄養科学専攻、生活環境学専攻、保育・教育学専攻に変更・改組

大学院の学び

特色
01

少人数制の授業により、大学院生の興味関心に合わせた指導が可能

少人数制の授業による「教員と院生の距離の近さ」と「きめ細かな指導」。これが大妻女子大学大学院の最大の特色です。興味関心に合わせて、授業の内容をカスタマイズすることも可能です。

Topics 01

院生ごとにカスタマイズされた充実の指導体制

本学の魅力は、担当指導教員だけでなく、専門外の教員からも一人ひとりにカスタマイズされた授業を受けられ、研究指導も院生ごとに合わせた手厚い内容となっています。授業はディスカッション形式で実施されるものが多く、院生は教員との対話の中で答えを導き出すトレーニングを積むことができます。また、少人数制だからこそ、発言機会も多く、分かりやすく他者へと伝える技術、発信力や表現力も磨くことができます。

Topics 02

人とのつながりが学び・研究を支える

本学には、困ったときに誰にでも、なんでも相談しやすい環境があります。それは、親身な教員が多いだけでなく、同じ志を持った先輩や同期が身近にいることで人とのつながりが形成されるからです。多くの時間を共に過ごすことで、お互いの変化に気づきやすく、研究・勉強以外でも互いにサポートしながら大学院生活を送ることができます。心理的にも物理的にも、他者のサポートを感じながら院生として過ごすことができます。

特色
02

他専攻科目の履修も可能。専門分野を超えた研究体制

個々の専門性を重視しながらも、専門領域外から自らの専門性を俯瞰（ふかん）し知見を深めることができるよう、他専攻科目の履修も認めて幅広く学べる機会を設けています。

特色
03

働きながら学ぶ社会人のための入試制度

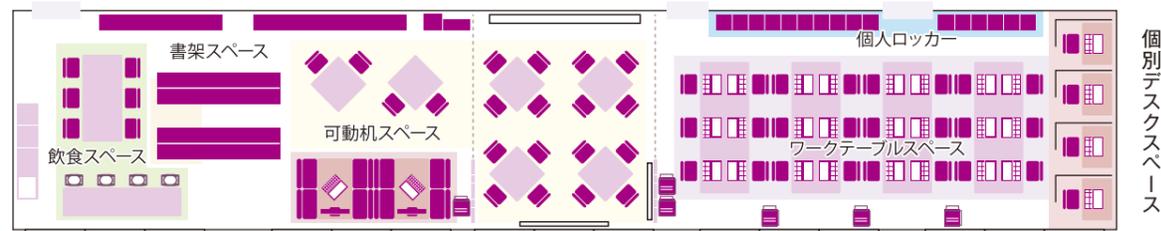
社会情勢の変化に伴い、社会人の学習の機会を一層拡大して創造性豊かな人材を育成することが求められています。本学大学院の社会人特別選抜では、高度な学識の修得と研究能力向上に意欲的な社会人を積極的に受け入れています。

※詳しくは学生募集要項をご覧ください。

特色
04

充実した学習環境

千代田キャンパスに、大学院生専用の自習室「大学院生室」があります。大学院生室には、レポート作成や論文作成のための個別デスクや、書架スペースのほかに、目的や用途に合わせてレイアウト変更が可能でグループワークにも利用できるスペースがあります。また、ノートパソコン、プリンター、個人ロッカー、無線LAN、天吊りプロジェクターなどの設備や飲食スペースも完備され、大学院生の皆さんの研究生生活をサポートします。



特色
05

大妻マネジメントアカデミー（OMA）

本学の院生・学生であれば無料で受講できる課外講座で、ビジネスの世界で役立つ知識やスキルの習得を目的とした学内ダブルスクールです。ビジネスやマネジメント、資格など、多彩なプログラムの中から学びたい講座を自由に選択でき、オンデマンドの講座もあります。各界の第一線で活躍する講師からの指導により、企業や社会にとって魅力的な人材に成長することができます。

2023年度主な開講講座 ▶ 営業基礎講座、プレゼン力養成講座、グローバル営業講座、時事問題基礎講座、コピーライティング講座、ライフプランニング講座、お金の世界を知る講座、日商簿記検定対策講座、FP技能士養成講座（ほか）

特色
06

大学院科目早期履修制度 NEW

2023年度から大妻女子大学の学部生が大学院修士課程の授業科目を履修できる「大学院授業科目早期履修制度」を導入します。本学大学院に進学を検討している学部4年生を対象に、本学大学院修士課程の授業科目を10単位まで履修できる機会を提供する制度です。授業料等は無料で、修得した単位は本学大学院に入学後、大学院の修了要件単位に含めることができます。

詳細はこちら



支援制度：助成金について

大妻女子大学人間生活文化研究所では本学大学院生の研究を支援すること、本学大学院の教育・研究を高度化・活性化することを目的に大学院生研究助成を行っています。

大学院生研究助成（A）博士後期課程在籍者…15万円以下
大学院生研究助成（B）修士課程在籍者…10万円以下

詳細はこちら



専攻構成・修業年限・学生定員

※修士課程の最長在学年数は4年、博士後期課程の最長在学年数は6年です。ただし、休学期間は、在学年数に算入しません。

研究科	専攻	専修	課程	修業年限※	入学定員	収容定員	
人間文化研究科	人間生活科学専攻	健康・栄養科学専修	修士課程	2年	12名	24名	
		生活環境学専修					
		保育・教育学専修					
		健康・栄養科学専修	博士後期課程				
		生活環境学専修					
	保育・教育学専修	言語文化学専攻	日本文学専修	修士課程	3年	3名	9名
	英語文学・英語教育専修						
	国際文化専修						
	日本文学専修		博士後期課程				
	英語文学・英語教育専修						
国際文化専修	現代社会研究専攻	情報コミュニケーション専修	修士課程	2年	6名	12名	
臨床社会学専修							
臨床心理学専攻		—	修士課程				2年

（男女共修）

修了後の進路

社会で活躍する修了生

人間生活科学専攻



昭和学院短期大学 勤務
土井 玲奈さん
人間生活科学専攻
健康・栄養科学専修 修士課程
2021年修了

社会人や他大出身者にも広く門戸が開かれ コンパクトにまとまったキャンパスで、研究がはかどりました

大学院では、妊娠期女性の食事パターンや食品摂取の多様性をういた食事アセスメント方法を構築し、その妥当性について検討する研究に取り組みました。私は他大学を卒業後、栄養士養成課程のある短期大学で助手として勤務していました。「ステップアップするなら大学院進学を」と当時の職場の教授にアドバイスされ、さまざまな大学院を調べたところ、本大学院なら深めたいテーマを研究できると知り進学を決意。社会人特別選抜など入試方式の種類が多く、社会人や他大出身者に広く門戸が開かれていることや学費が安価な点も後押しとなりました。実際に通ってみると、都心に位置する千代田キャンパスへのアクセスの良さや、大学院生専用の自習室、研究に必要な設備などがコンパクトにまとまっている学内環境も、研究をスムーズに進める上で重要なポイントでした。研究領域が幅広い本専修内で、ほかの修士生の研究内容を知るきっかけとなったのが「研究方法論」の授業です。先生方がオムニバス形式で担当され、さまざまな研究の背景や手法について詳しく講義。修士生同士で協力して課題に取り組み、プレゼンテーションの練習をしたこともよい思い出です。

研究の意義や楽しさを学び 仕事と研究を両立させています

今、短期大学の助手として、栄養士を目指す学生のサポートに従事しています。授業の運営補助や学校行事の運営などが主な業務です。また、一昨年度から大妻女子大学の研究員制度を利用して研究も続けています。振り返ると、研究に関する知識が乏しかった大学院進学当初、先行研究の探し方から文章の組み立てまで小林先生に多くのことを教えていただきました。手法だけでなく、研究の意義や目的設定の重要性、楽しさも学び、今の私の礎となっています。現在は、仕事と並行して学会発表や論文の作成などを行っていますが、自分自身の成長を実感します。今後も、大学院での学びと経験をさまざまな場面で生かしていきたいです。



主なキャリアイメージ

- 専修免許状取得後の中学校・高等学校家庭科教員
- 食品企業の総合職・専門職
- 国立研究機関の技術職員
- 専門学校・短期大学などの栄養教員
- 保育者養成校（専門学校・大学・短期大学）の教員
- 公立小学校の教員 など

言語文化学専攻



江戸川女子中学校・高等学校 勤務
鈴木 茉莉子さん
言語文化学専攻
日本文学専修 修士課程
2021年修了

研究に必要な資料は学内の図書館や 近くの国立国会図書館でそろった環境でした

学部生時代に学んだ和歌の儚くも美しい表現性にひかれ、卒業論文で扱った歌集「建礼門院右京大夫集」をさらに幅を広げて研究しました。学内の図書館や文系図書室には研究に欠かせない書籍がそろい、近くに国立国会図書館もあるため資料には困らない環境でした。また、専門領域以外の授業で漢文や現代文の読解力、作品の表現性について思考する力などが鍛えられ、研究に生かすことができました。



大妻女子大学・関東学院大学 勤務
島村 志保さん
言語文化学専攻
英語文学・英語教育専修
修士課程2001年 修了
博士後期課程2004年 単位取得退学

先生との距離の近さや助手の方々のサポートが 英米詩研究を支えてくれました

大学院在学中は現代英米詩を研究。数多くの作品にふれ、修士論文では「エリザベス・ビショップの詩の構造」を考察しました。すぐに質問できる先生との距離の近さや、大妻女子大学卒業生の助手の方々の手厚いサポートなど恵まれた環境下で研究に励みました。現在は大妻女子大学などで英語を教えています。学生たちが個別に質問できる時間を設け、英語を通じた豊かな知性の育成に努めています。



SCSK 株式会社
ソリューション事業部 勤務
吉越 里桜さん
言語文化学専攻
国際文化専修 修士課程
2022年修了

研究のプロフェッショナルである教授陣との 一対一の学びで「考え抜く力」が身につきました

豊かな知識や経験を持つ教授たちは、研究において考え抜くことのプロフェッショナルです。先生方と一対一で学ぶことで、自ずと考え抜く力が磨かれていきました。研究では「中国のスマートシティ化」に取り組み、日本のIT化を推進するために新たな付加価値を生み出していきたいと考えるようになりました。大学院で身につけた力は、多方面からお客さまの求めることを考え抜く今の仕事に役立っています。

主なキャリアイメージ

- 専修免許状（国語・英語）取得後の中学校・高等学校教員
- 日本語教員
- 学芸員・図書館司書
- 研究職を目指した進学
- その他、一般企業総合職 など

現代社会研究専攻



社会福祉法人 シナプス
埼玉精神神経センター 勤務
朝倉 由衣さん
現代社会研究専攻 修士課程
2019年修了

働きながら学ぶことができたのは 柔軟な制度や支援があったからです

大妻女子大学卒業時に社会福祉士と精神保健福祉士の国家資格を取得し、認知症専門の療養型病院を経て、現在は脳神経総合病院の医療福祉相談室に勤務しています。業務として精神保健福祉士を目指す学生の実習指導に携わるようになり、改めて精神保健福祉士として考え、判断する難しさに直面。思考や判断といった目に見えない力を科学的に解明したくなり、卒業から数年経ってから大学院に進学しました。本大学院を選んだのは、学部生時代に教えていただいた蔵野先生の指導を受けたかったからです。また、フルタイムの仕事続けながら、生活に合わせて履修計画を組める長期履修学生制度など、学びやすい環境も魅力でした。在学中はさまざまな面で教職員の方々に柔軟に対応いただきました。学ぶ意欲のある人を全面的に支援してくれる大学院です。研究では、精神保健福祉士の養成研究に取り組み、精神保健福祉士としての思考や判断の質が均一化される評価尺度を実習生に使用してもらい、行動変容を測定するデータを取って考察を深めました。

指導に導かれて研究の本質をつかみ 多角的な視点も身につきました

大学院では研究の本質を学びました。大きな山場だったのは、調査データを質的分析し、修士論文にまとめる過程です。論文の核になるため先生の指導も一層熱を帯び、対話を幾度となく繰り返して理解を深めていきました。十分納得できた瞬間は今でも覚えています。そこから、一気に論文をまとめ上げました。現在の職場では、患者やそのご家族が直面する問題を共に考え、支援すること、認知症の専門医療相談、自治体と共同で認知症に関する研修の企画・運営など幅広い業務に携わっています。大学院で福祉関連だけでなく、社会学に関する授業も多く受講し社会的な視点を学んだことが、物事を多角的に考える姿勢につながり、役立っています。研究成果は、学生の現場実習指導で活用したり、教壇に立つ機会をいただいた折に、実践力のある人材養成の指導について考える拠りどころにしたりと、さまざまな場面で生かしています。



主なキャリアイメージ

- 専門社会調査士資格を活用する、
社会調査／マーケットリサーチ専門会社
- IT 技術を活用する業務／コンテンツ産業
- 子育て支援や女性自立支援に携わる公務員／
NPO・NGO 法人
- 研究職を目指した進学
- その他、一般企業総合職 など

臨床心理学専攻



独立行政法人 地域医療機能推進機構
JCHO 東京新宿メディカルセンター 勤務
佐藤 知香さん
臨床心理学専攻 修士課程
2021年修了
公認心理師・臨床心理士

大学院での研究だからこそ貴重な経験を積めました

学部生時代にカウンセリングのロールプレイや心理学の知見を学ぶ中で、臨床心理をもっと深く勉強し、それを生かした仕事に就くという目標を持つようになりました。そのため、臨床心理士・公認心理師を目指して大学院へ進学しました。本大学院の特長は、院生と先生方の人数がほぼ同じで、指導教員以外の先生ともつながりを持ちやすいところ。質問や相談にすぐに応じていただけ、丁寧な指導を受けられます。また、面接、遊戯療法、心理検査など、学生一人が複数ケースを担当できる点も実践力を磨く上で魅力的でした。修士論文で私が取り組んだのは、多職種連携の視点から、流産・死産を経験した母親に対してどのような支援ができるかという研究です。病院で出産する母親のいちばん近くにいる産婦人科の助産師に直接インタビューするなど、貴重な経験を積むことができました。支援体制や課題を明らかにし、心理職による支援の可能性について質的研究法を用いて検討しました。

豊富な学内外実習で得た多くの学びを 心理職のプロフェッショナルとして生 かしていきます

学内外の実習も充実していて、学内実習では一回の面接ごとに手厚く指導いただき、ケースに向き合う姿勢や面接、アセスメントの基本など多くの学びを得ました。学外実習は豊富な実習先から興味のある分野を選択できます。私は医療と教育の領域で実習し、それぞれで求められる心理職の在り方を学びました。この実習経験が修了後の進路検討に役立ち、幅広い世代をさまざまな視点からアセスメントする今の仕事へとつながりました。現在の仕事は小・中学生や成人への心理療法、心理検査です。悩みや困りごとを抱える人だけでなく、その人の周りの環境、関わる人たちをていねいかつ包括的にアセスメントし、ケース理解を深めるよう意識しています。ときに行き詰まることもありますが、大学院で毎週行っていたケースカンファレンスで学んだ、全体を冷静に見つめ直す姿勢を思い出し、アプローチ方法を定めることを心がけています。



主なキャリアイメージ

- 精神科病院、クリニックなどの医療領域の心理士
- 発達障害などの療育施設、児童養護施設などの福祉領域
の心理士
- 小学校・中学校・高等学校のスクールカウンセラー
- 青少年相談センターの相談員
- 大学学生相談室などの心理相談員 など

生活を総合科学として捉え、 生活の知を探求します

本専攻は、健康・栄養科学、生活環境学、保育・教育学の3専修からなりますが、それぞれの研究領域の枠を超え、人と人間生活について総合的に探求することを目指しています。

健康・栄養科学専修では、医療、公衆衛生、食育、企業における食品開発などの領域で活躍する「食と健康」の専門家を養成します。生活環境学専修では、衣・食・住・生活・地域・地球環境のサイエンス、マネジメント、デザインの研究・教育を行います。保育・教育学専修では、人生の各周期段階における発達臨床上の諸問題について、その本質や背景要因を解明し、理論的・実践的な問題解決能力を身につけ、保育・教育・臨床などの分野において高い見識を身につけた人材および後継者を養成します。そのほかに、生活科学が取り扱うべき多様な授業科目を提供していますので、大学院生は大きな自由度を持って自らの関心に合わせて履修できます。

修士論文題目

- LPS炎症モデルマウスにおける全粒穀物の炎症抑制効果に関する研究
- 膵臓がん患者への栄養支援
- 学校給食における地産物活用と食嗜好との関連
- 遊び場面における「ノリ」とは「ころがしドッジボール」の事例を通して
- 在宅訪問栄養指導における管理栄養士のアプローチ
- 海藻由来の水溶性食物繊維がマウスの肥満と腸内細菌叢に及ぼす影響
- 特別養護老人ホーム入居者における体重管理の重要性
- 昭和時代前期の大妻学院における裁縫・手芸教育について
- 同窓会誌、博物館所蔵品をもとに -
- コレクティブハウスにおける生活実態および共用空間の利用からみる有効性
- パネルシアターをつくり演じる活動における学びのプロセスの検討
- 多職種連携における保護者を中心としたチーム支援のあり方
～骨形成不全症の幼児の子育て支援の事例を通じて～

令和5(2023)年度
授業時間割表



履修キャンパス

千代田キャンパス

修士課程

健康・栄養科学専修
生活環境学専修
保育・教育学専修

博士後期課程

健康・栄養科学専修
生活環境学専修
保育・教育学専修

学位

修士課程：修士(生活科学)
博士後期課程：博士(生活科学)

取得可能な免許・資格

教育職員専修免許状

詳細は9ページをご確認ください。

中学校教諭専修免許状(家庭)
高等学校教諭専修免許状(家庭)
幼稚園教諭専修免許状
小学校教諭専修免許状
栄養教諭専修免許状

衣料管理士専修

※資格取得の要件について
・衣料管理士1級を取得済であること
・指定された4領域のうち2領域以上から8単位以上を修得すること
・人間生活科学専攻(修士課程)で修士の学位を取得すること

お問い合わせ

健康・栄養科学専修
生活環境学専修
保育・教育学専修

human.life.sciences@ml.otsuma.ac.jp



人間生活科学専攻 健康・栄養科学専修 修士課程 2年
加山 未奈さん

最先端の研究分野に携わり
主体性が磨かれていく

学部生時代の臨地実習で、食事管理が必要な大勢の方々を目の当たりにし、管理栄養士として進む道を考える転機となりました。それまでは、個々の患者さんに向き合うことに目を向けていましたが、根本から健康問題を解決したいと考えようになり、生活習慣病に関わる研究を念頭に置いて大学院に進学。その際、先行研究例が少ない、小麦や大麦に多く含まれる低分子水溶性食物繊維の機能性という研究テーマを指導教員より提案していただきました。未知な部分が多い成分なので、参考文献が非常に少なく、研究の方向性や調査手法の選択が困難なことも多々ありました。そんなときには、食物繊維分野研究の第一人者である青江先生の見解をすぐに伺え、アドバイスをいただけるとても恵まれた環境がありました。研究を進めるには、自分で考え行動することがとても大切で、主体性が磨かれていると感じます。これらの研究を生かし、より多くの方の健康に寄与できる企業で働きたいです。



教員紹介

☆の教員は研究指導担当 ★の教員は博士後期課程兼任

健康・栄養科学専修

- 青江 誠一郎 教授** ☆★
基礎栄養学
[博士後期課程・修士課程専攻主任]メタボリックシンドローム予防のための基礎研究を行う。大麦、カルシウムなどの乳成分、機能性食品素材(脂肪酸、水溶性食物繊維など)を研究材料とする。
- 明渡 陽子 教授** ☆★
医療と福祉周辺の問題
イギリスの健康格差問題と肥満問題の現状分析およびNHSSや政府の対策調査から健康増進政策の在り方、予防への国家的取り組みと成果を分析し、日本の肥満・痩せ問題のヒントを得る。
- 岩瀬 靖彦 教授** ☆★
予防栄養学
一次予防の実現のために、人の健康状態に関連する食・生活習慣への影響因子を収集し、栄養疫学を用いて解析するための手法について研究する。
- 大田原 美保 教授** ☆
調理科学
調理操作や食材選択による食べ物のおいしさの制御を目的として、機器による客観的測定と人による官能評価の両面から研究を行う。特に、調理による好ましい食感創出とその保持を研究対象とする。
- 川口 美喜子 教授** ☆
臨床栄養学
臨床栄養はすべての患者の栄養状態を正確に把握し、必要に応じて適切な栄養管理を施行する。個々の症例に適した栄養管理を実施するための、栄養ケアプロセスを研究する。
- 清原 康介 准教授** ☆
公衆衛生学、疫学
病院外で起こる心停止の発生や加熱式タバコの使用など、公衆衛生学的課題を研究。データベースを構築、統計的手法を用いて解析し、将来の予防・介入に役立つようなエビデンス構築につとめる。

生活環境学専修

- 赤澤 真理 准教授**
建築歴史意匠、日本住宅史
日本住宅の歴史を、時代の社会的文化的背景から研究している。文献史料・絵画史料・遺構などを史料に、当時の使い方という視点から、平面構成・空間構造・意匠の分析を行う。
- 阿部 栄子 教授** ☆★
衣服環境造形
人間が健康・快適に生活するという観点から衣服環境を捉え、人間・衣服・環境(近接)系の立場から近接環境造形の基礎と問題点について考究する。
- 内田 直子 教授** ☆
被服心理学、衣生活行動論、消費生活学
私たちの生活をみつめることを根底に置きながら、人間-環境系研究(被服心理学、環境心理学)の視点からみた服装と空間・場の適合研究、近現代の衣生活文化と消費者行動に関する研究などを行う。
- 大橋 寿美子 教授** ☆
住居学、住居計画
小家族化した現代において家族を超えたつながりをつくる住まい方や住まいの計画および地域の在り方について研究および実践活動を行っている。
- 木下 勇 教授** ☆★
ランドスケープ、生態環境デザイン、まちづくり
人間も生態系の一部として地域の環境を捉え、身近な範囲から都市および地方という広い範囲までを対象に緑・自然豊かな持続可能な環境を形成するための研究を行う。
- 黒沼 吉弘 教授** ☆
環境政策論、環境資源経済学
人類が共有する環境資源の経済管理・制度・政策に関する理論的・実学的研究。特にクジラやマグロなど高度回遊性海洋生物資源の管理、利用をめぐる経済や経済法、経済政策を検討する。
- 下田 敦子 准教授**
民族服飾計量学、生活技術論
東南アジア狩猟採集社会～山岳地域農耕社会を対象に人類史における衣生活の変遷、伝統衣服製作技術の伝承過程、人の発育、発達に伴う技術習得過程の計量的研究を行う。
- 竹内 知子 教授**
遺伝学
生物の発生に重要な役割を果たすRNAの局在化について、真核生物のモデル系である酵母を用いて研究している。

保育・教育学専修

- 石井 章仁 准教授**
保育学、保育・子育て支援
子どもが育つ社会的仕組みや子育て家庭への当事者主体の支援について関心がある。特に、保育や子育て支援に関しての諸課題、保育内容、計画や評価、研修、多文化保育などの研究を行う。
- 石井 雅幸 教授** ☆★
理科教育、幼児・小学校教育
幼児期・学童期を対象に、以下の点に関して教育方法的に研究を進める。①自然事象について子どもは持っている「知識」をいかに働かせて学ぶのか。②子どもにとって自然体験を行う意義とは。③食育の意義とその方法とは。
- 岡 健 教授** ☆
園内研修法、環境構成論、遊び論、次世代育成支援
子どもが育まれるために大人(市民から専門家まで)は何をなすべきか、実践の現場から制度・施策までの研究を行う。
- 加藤 悦雄 教授** ☆
社会福祉の分野を中心に子どもを取り巻く生活問題(または福祉ニーズ)の把握と課題解決に取り組む市民協同セクターの働きの研究を行う。関連して、子どもの権利擁護の方法などの検討も行う。
- 金田 卓也 教授** ☆★
芸術教育
造形的表現に焦点を当て、研究指導を行う。これまでに発展途上国の子どもたちの造形活動を、多元文化的なアプローチで研究している。
- 樺山 敏郎 教授**
国語科教育
学校教育における教科「国語」の理論・実践について研究を行う。音声および文字による表現領域、説明系統および文学系統の読解領域を中心に小学校国語科教育のありようを解明する。
- 厚東 芳樹 准教授**
身体教育学
優れた教師は多様なものごとの「関心」から「知識」を豊富に獲得し、その知識を中核に「出来事」の予兆に気づき、言語的相互作用を展開するという研究仮説を裏付けている。
- 坂田 哲人 准教授**
教育・保育経営学、比較教育・保育学
学校あるいは保育所・幼稚園を対象としたマネジメントに関する領域を専門とする。組織や人材に着目した効果的な経営の在り方を追究する。海外の学校・園も調査対象とし、比較研究にも取り組んでいる。

- 小林 実夏 教授** ☆★
公衆栄養学、栄養疫学
①食習慣を把握するための評価方法に関する研究。②女性の生活習慣と食事要因に関する栄養疫学研究。
- 小治 健太郎 教授** ☆
機能性食品学
種々の機能性食品素材を用いて、ヒトでのエネルギー代謝研究、睡眠研究、自律神経活動研究などに関わる有効性評価を行う。
- 高波 嘉一 教授** ☆★
応用健康医学、運動生理学
生活習慣病予防に対する運動、栄養の効果の分子メカニズムを明らかにし、より効率的な運動法、食療法などを個別に提案できるシステムを構築する。
- 田中 直子 教授** ☆★
食品生化学、栄養生化学、細胞生化学
メタボリックシンドロームの発症機構および機能性食品成分の予防効果に関する、細胞を用いた基礎的研究。機能性成分が生体内で機能を発揮する様子を可視化・定量する。
- 玉木 有子 准教授**
調理学、食品栄養学
食べ物が持つ栄養性、嗜好性、機能性のうち、消費者の受容性を大きく支配しているのは嗜好性といえる。食べ物のおいしさとは一体何であり、いかに捉えるかを、人と食べ物の両側面から研究する。
- 堀江 正一 教授** ☆★
食安全学
薬剤耐性菌や植物性自然毒などの食品の安全性に関する学術研究はもとより、消費者に向けた食の安全・安心に関する情報発信の在り方も研究対象とする。

- 園野 哲也 教授** ☆★
被服材料学、染色化学
繊維の構造物性測定や、染料の染着機構解析などの実験を通じて、被服材料とヒトのかかわりを探求する。そしてこれらの知見を包括して、「ヒトはなぜ服を着るのか」を追究する。
- 手呂内 伸之 教授** ☆
植物生物学
マメ科植物と根粒菌の共生関係の獲得の機構を分子生物学的な手法を用いて研究を行う。
- 中川 麻子 准教授** ☆
服飾文化史、デザイン史
近代日本の染織品、服飾、手芸などについて、歴史とデザインの視点から考察する。博物館調査、文献収集、資料の講読、技術復元などを通じて研究指導を行う。
- 中川 まり 准教授**
家族社会学、家族関係学、ジェンダー研究
家族における性別役割分業、父親の子育て・家事、母親のキャリア形成などについて量的方法を中心とした研究を行っている。夫と妻の社会的役割と家庭内役割との関連、夫婦の相対的資源にも着目している。
- 中島 永晶 教授**
ファッションマーケティング、デザインマネジメント
①効果的なブランディングワークの在り方。②マーケティング企画およびデザイン企画提案。③芸術文化情報のファッションビジネス教育への活用。
- 細谷 夏実 教授** ☆
細胞生物学、海洋環境教育
水生生物を用いた発生や再生の研究。特に、海産無脊椎動物卵の初期発生過程などを指標として、ポストハーベスト農業の影響を細胞生物学的側面から検討している。
- 松本 暢子 教授** ☆
住居学、住宅および住宅地計画、都市計画
①宅地の更新実態と家族の住生活史。②家族の高齢化に伴う居住問題。③ハウジングと都市計画の連携。④地方自治体の住宅政策・都市計画。以上を研究対象としている。
- 水谷 千代美 教授** ☆★
被服機能設計学
抗菌・消臭繊維、環境にやさしい繊維などの機能性繊維の特性を評価し、その特性を被服分野に応用することを目的とした研究を行う。

- 柴山 真琴 教授** ☆★
発達心理学、異文化間心理学
文化間移動を経験した子どもや国際結婚家族の子どもなど、二文化交錯環境で育つ子どもの発達過程を、日常的に参加する社会的実践に根差して質的に分析を行う。
- 高橋 ゆう子 教授**
臨床心理学
①幼児期・児童期の障がいのある子どもと母親への支援。②保育や教育における特別な配慮が必要な子どもへの支援の在り方。③自閉症スペクトラム障がいに関する養育支援。以上について研究する。
- 鳥海 順子 教授** ☆★
障害児保育学、障害児教育学、障害児発達学
障害のある子どもに関する保育や教育、発達などについて研究指導を行う。最近では教員養成の教育課程について、また、海外で障害のある子どもを育てている邦人家族に対する支援の実情についても研究している。
- 林 明子 専任講師**
教育学、教育社会学
家族関係や家庭内での役割に着目しながら、社会的に困難を抱える世帯に育つ子ども・若者の移行過程について研究を行っている。また彼らを対象とした支援事業についても検討する。
- 久富 陽子 教授** ☆
保育学
障害のある子ども、外国人の子どもなど特別な配慮を要する子どもの保育に関する保育方法や内容など、子どもの育ちおよび保育をめぐる課題についてさまざまな視点から研究を進める。
- 宮本 桃英 専任講師**
発達臨床心理学
多様な背景を持つ乳幼児と代替養育を担う大人との間で再構築される「愛着」「甘え」に着目した関係性発達について検討している。支援者が抱える課題から子どもにとって必要な家庭的養育を考える。
- 矢野 博之 教授**
教師教育、学校教育論
教育活動や教授行為について、教育職や関係機関のありようの解明を目的に、量的アプローチ・質的アプローチなど多様な視点や方法論から研究を行う。
- 山本 真知子 准教授**
子ども家庭福祉、社会的養護
さまざまな課題のある子どもとその家族への支援を中心に研究している。①里親・ファミリーホーム家庭への支援②障害児・難病児のきょうだいへの支援③保育所などにおける地域への家庭支援。

日本語、英語による文学と、その背景にある文化について考察します

修士課程は3つの専修に分かれます。入学定員の3倍以上の教員が研究と教育を担当します。日本文学専修は、古典文学分野・近代現代文学分野と日本語学分野を主に研究します。上代(奈良)・中古(平安)・中世(鎌倉・室町)・近世(江戸)・近代現代(明治以降)・日本語学のいずれかを専門としますが、時代をわたっての研究も可能です。英語文学・英語教育専修には3つの分野があり、英語文学分野は主に英米の文学を通して、英語学分野は統語論から語用論まで言語を切り口として、それぞれ英語圏の言語文化を研究の対象とします。英語教育分野では英語を介した言語教育を推進して異文化交流に貢献する英語教員を養成します。なお英語教育分野では、現職教員(小・中・高)の方々のニーズに応え、勤務を継続しながら受講できるよう、夜間の開講など柔軟性のある時間割を計画します。国際文化専修は、流動化し多様化する国際状況のなかで、多文化・多言語を対象とする研究と教育を推進して研究者を養成します。それとともに、欧米のみならず中国・韓国などの地域文化などに対する高いレベルでの専門的な知識や情報処理能力を備え、国際的な文化・社会における交流とその形成に参画できるコミュニケーション能力や実務的能力を身につけた人材を養成します。なお3専修に設置されている博士後期課程で、専門性をさらに高めることができます。

修士論文題目

- 永久に咲く貴公子-「建礼門院右京大夫集」における平資盛の形象-
- 他者介入による自己理解-温又柔「真ん中の子どもたち」論
- 中国のスマートシティ化
- リーディング・ストラテジーの活性化と長文読解におけるその効果

令和5(2023)年度
授業時間割表



日本語教員養成プログラム

言語文化を中心とした幅広い学問分野を擁している言語文化学専攻(修士課程)で、さらに有為な人材を育成するために、「日本語教員養成プログラム」を設置しています。本プログラムは、日本語を外国人に教えることができるだけでなく、国際的視野に立って、社会に貢献できる人物を育成するためのプログラムです。開講科目の中から、日本語教員養成プログラムで指定されている所定の科目を履修することにより、分野や専門に関わらず、大学の定める日本語教員養成プログラム修了証明書の交付を受けることができます。



言語文化学専攻 国際文化専修 修士課程 1年 傅 静さん



利便性の高い施設環境で日・中のサブカルチャーを追う

本大学院への進学の手続きは、学部生時代にゼミで指導いただいた松村先生のもとで、引き続き研究できることでした。また、多方面からのアクセスがよい都市型の千代田キャンパスは、学内施設がコンパクトにまとまっていて利便性が高く、とても研究しやすい環境です。大学院は、より専門性の高いテーマを追究する場です。学部で取り組んだ国際文化に関する研究をさらに深め、日本と中国におけるサブカルチャーの流行の背景と原因を考察していく予定です。日本や中国の若者たちはアニメやゲーム、コスメなどお互いの国のサブカルチャーをうまく取り入れて楽しんでいます。両国を知る私の強みを生かして研究を進めたいです。また、研究成果を踏まえて大学院修了後、日中文化のコミュニケーション促進につながる仕事に携わることを目標に、ビジネスにつながる実践力も磨いていきたいです。

履修キャンパス

千代田キャンパス

修士課程

日本文学専修
英語文学・英語教育専修
国際文化専修

博士後期課程

日本文学専修
英語文学・英語教育専修
国際文化専修

学位

修士課程：修士(文学)
博士後期課程：博士(文学)

取得可能な免許・資格

教育職員専修免許状

本学大学院研究科の修士課程を修め、修士の学位を有し、教育職員免許法に定める所定の条件を満たした方は、専修免許状を取得することができます。

※1種免許状未取得の方も、科目等履修生制度を利用することにより、専修免許状取得が可能です(ただし、免許状の取得には3年以上かかります)。

中学校教諭専修免許状(国語)
高等学校教諭専修免許状(国語)
中学校教諭専修免許状(英語)
高等学校教諭専修免許状(英語)

お問い合わせ

日本文学専修 TEL: 03-5275-6028
英語文学・英語教育専修
TEL: 03-5275-6068
国際文化専修 TEL: 03-5275-6116

教員紹介

☆の教員は研究指導担当 ★の教員は博士後期課程兼任

日本文学専修

- 天野 みどり 教授** ☆★
日本語学(現代日本語研究)
実際に用いられる言語を観察すること、言語現象を深く理解し問題点を明らかにすること、言語の仕組みを論理的に説明することを指導していく。
- 井原 あや 専任講師**
近代・現代文学
近現代の小説や雑誌(文芸雑誌・女性雑誌)の投稿欄・読者欄について、ジェンダーの視点などさまざまな角度から検討し、社会のなかにある規範や制度と文学の関係について研究する。
- 木戸 雄一 教授** ☆★
日本近代文学
19世紀後半の諸言説から、近代の言語および言説の体系の成立について研究する。
- 君嶋 亜紀 教授** ☆
中世文学
院政期から鎌倉・南北朝期の和歌文学。表現そのものの機制と時代との関わりという視点から、歌語と表現方法、表現意識、歌集の構想について分析している。
- 久保 堅一 教授** ☆
中古文学
「竹取物語」や「源氏物語」など物語文学を中心に研究。作品間のつながりや漢籍の受容に注目している。表現を丁寧に分析し、和・漢の知識を広く持つことを重視して指導を行う。

英語文学・英語教育専修

- IKEDA, KEN 教授** ☆
英語教育(社会や学習者)
日系アメリカ人の歴史とその映画表象、英語授業の観察と談話分析、英語の使用に関する学生の意識を研究する。
- 伊東 武彦 教授** ☆★
英語教育学
【修士課程専攻主任】外国語教授理論、教師論、教材論、異文化コミュニケーション論、外国語教育政策の分野において、わが国の英語教育の在り方を考察する。
- 江連 和章 教授**
英語学
広義の認知・機能言語学の枠組みにて、英語の意味論と語用論の領域を研究する。文の形式と意味の対応、談話機能との相互関係などから「言語の本質」を究明する。
- 吉川 信 教授** ☆★
英文学
イギリスの「ノヴェル」、つまりは18世紀に誕生し今日まで書き継がれている、散文による物語形式(英国風俗小説)を研究対象とする。
- 新谷 敬人 教授** ☆
音声学、音韻論
アクセント、イントネーションなどのプロソディを中心とした実験研究。国際語としての英語を念頭においた、日本人が目指すべき英語発音、教育方法の研究。

国際文化専修

- 李 美淑 准教授** ☆
メディア研究、ジャーナリズム研究
女性やマイノリティがメディアのなかでどのように描かれ、語られるのかを(批判的)言説分析や制作過程分析を通じて考察する。また、ジャーナリズムの国際比較研究にも取り組んでいる。
- 井上 淳 教授** ☆★
国際政治学、国際政治経済学、EU研究
EUの各種政策、貧困削減や紛争予防における国連との連携などを、理論や分析枠組と実証を組み合わせて研究している。
- 榎本 恵子 准教授** ☆
フランス文学、フランス演劇
フランス演劇、特にフランス古典喜劇に浮き彫りにされる16世紀末から18世紀の政治、社会、価値観の推移を総括的に検証していく。
- 大野 真 教授** ☆
映像論、演劇論
欧米と日本を中心とした映画を採り上げ、そこに現れた映像の言語を「文学として」読み解く。必要に応じて演劇も研究対象となる。特にナチス・ドイツとユダヤ関係の作品を採り上げることが多い。
- 興津 妙子 教授**
国際教育開発、比較教育学
開発途上国における教育の在り方について研究。また、「持続可能な社会」の実現に向けて、教育はどのような貢献をすることができるのかについても研究を行う。
- 川村 覚文 准教授** ☆
メディア文化論、カルチュラル・スタディーズ
情動をテーマに、アニメを中心にしたメディア文化などについて研究している。また、メディア・テクノロジーの発展がもたらす人間社会や精神のあり方への影響などについても、理論的・批判的・学際的に研究している。
- JOHNSON, G.S. 教授** ☆
日本史、児童史、教育史
戦争と子ども、戦争体験談、文化(文学、映像、画像など)における子どもの像、スポーツ史、現代文化における伝統を研究。
- 関本 紀子 専任講師**
東南アジア史
フランスによるベトナム植民地統治の実態、植民地期ベトナムの社会構造や地域性について、物価変動、度量衡(計量器、計量単位)、交通運輸などの観点から分析・解明している。

- 倉住 薫 教授** ☆
上代文学
日本上代文学の韻文作品である万葉集の表現研究。同時代の散文作品である古事記・日本書紀・風土記と受容された漢籍なども踏まえた多岐にわたる用例分析や、研究方法の観点から指導を行う。
- 小井土 守敏 教授** ☆★
中世文学
日本古典文学としての中世文学のうち散文作品を対象に研究。「平家物語」などに代表される「軍記文学」を中心に研究する。
- 桜井 宏徳 教授** ☆
古代文学
平安時代から南北朝時代にかけての和歌・物語・日記などの仮名文学と歴史叙述を中心に研究。方法論に自覚的であること、時代やジャンルを越える広い視野を持つことを重視して研究指導を行う。
- 内藤 千珠子 教授** ☆★
近代・現代文学
近現代の物語の構造を、ナショナリズムとジェンダーという主題で検証し、物語の定型に含まれる暴力をフェミニズム批評の視点で考察。方法論的な観点から研究指導を行う。
- 増野 弘幸 教授**
中国古典文学
周から六朝を中心とする中国古典詩における表現と習俗の関係について探求。主に詩に表現される比喩表現について文献などを利用して考察する。

- 鈴木 紀子 准教授**
アメリカ文化、アメリカ研究
第二次世界大戦以降の日米間の文化政治的関係を考察する。映画や文学を通して、米国の民主主義が戦後日本に移植され、受容されていく複雑な様相を解析する。
- 田代 尚路 准教授**
英文学
イギリスのロマン派からモダニズム期までの詩を研究する。詩における話者(「私」)の位置および桂冠詩人制度において顕在化される詩の社会的役割について考察する。
- 服部 孝彦 教授** ☆★
英語教育学
コミュニケーション能力の理論的考察、読得コミュニケーションとしてのレトリック批評の考え方と実践の方法論、小学校英語教育などの研究を行う。
- 村上 丘 教授** ☆★
英語学
【博士後期課程専攻主任】最新の論文・文法書を精査し、英語の多様な言語現象に関するさまざまな主張を批判的に検討する。言語資料は大容量の電子化されたコーパスを活用する。
- 米塚 真治 教授** ☆★
アメリカ文学
20世紀アメリカの作品の中に見る人間の描き方から、フィクションの力と有効性について考察する。

- 銭 国紅 教授** ☆★
中国と日本を中心とする比較文化・比較思想、トランスナショナル文化論、東アジア研究
中日両国の文化と社会の本質特徴などさまざまな課題を学問的視点からだけではなく、学際的に分析する。

- 戸田山 祐 専任講師**
アメリカ史、移民研究
アメリカ合衆国とメキシコのあいだを移動する移民の歴史を研究している。また、アメリカ合衆国におけるラテンアメリカ系市民の政治参加の歴史と現状も研究対象としている。

- 松木 博 教授** ☆
日本近代文学、比較文学
明治初期(1880年代)以降の日本近代文学を研究対象とし、森鴎外を中心に据えて持続的に考察する。

- 松田 春香 准教授** ☆
東アジア国際関係史、韓国・朝鮮近現代史
冷戦期の朝鮮半島を中心とする東アジア国際関係史。特に米国・韓国・日本の外交・軍事関連文書を用いて研究を行う。

- 松村 茂樹 教授** ☆★
アジア太平洋国際交流論、サーバントリーダーシップ論
私の専門は、中国文化論であったが、2015年度の米国ボストン研修以降、米国発の「サーバントリーダーシップ(servant leadership: リーダーとして「ヨコ」のつながりを重視し、他者へ仕える精神)」の研究へ新たに取り組んでいる。

- 守田 美子 教授**
英語学、英語教授法
言語学の見地を生かしつつ、日本語と英語の比較を通して、コミュニケーションの違いや、文化・社会の差異を読み解く。また言語による視点の違いを生かした英語の教授法についても考察する。

- 吉田 光浩 教授** ☆
日本語学(日本語史)
日本語の歴史・語彙論の研究。日本語の変遷や、言葉が、非言語の要素とどのように関係しながら、コミュニケーションを成立させているかを考察する。

- 渡邊 顕彦 教授** ☆★
西洋古典学
専門は古代ギリシアとラテン語、ローマ文学、文化、歴史など。最近では後世(特にキリスト教時代と明治以降)における西洋古典の受容、古代地中海のイメージ形成と拡散も研究している。

現代の社会に必要な コミュニケーション能力と 調査・支援のスキルを身につけます

現代社会研究専攻は、2つの専修から成り立ちます。情報コミュニケーション専修では、現代社会の構造的基盤を成す情報コミュニケーションに関わる諸問題の理論的・実証的な分析力を深めます。さらに、IT化が進む中で重視されている基本情報技術者・ITパスポート資格など情報処理のエキスパート、教科「情報」の教職資格のステップアップを目指す社会人の養成に力を入れています。臨床社会学専修は、都市文化、教育、生と死、ジェンダーなど現代社会に起きている社会現象を実証的に調査研究し、そこに起きている問題に対する実践的政策を探ることを目指します。いずれの専修も、現代社会が要請する専門的な学問領域と職業領域との連携を図り、コミュニケーション能力と臨床能力を備えたより高度な職業人の養成を目標としています。

修士論文題目

- ICTを活用した遠隔スーパーヴィジョンに関する研究
- ソーシャルワーク実践力を向上させるためのスーパービジョンツールの開発 -
- ハビトゥスによって生じる男性に従属的な女性の行為 - ミソジニーとの関連から -
- 笑う若者 - お笑い番組と若者の人間関係の関連についての一考察 -
- 日本社会における難民の受け入れに関する研究
- 日本の難民に関する新聞報道の検討を中心に -
- 避妊に関する女性の「自己決定」のあり方
- 低用量ピルに対する女性の意識に関する分析から -
- 医療機関の精神保健福祉士実習における実習評価尺度の開発
~ ソーシャルワーカーの価値を伝えるために ~
- 障害児を育てる親の語りと性別役割分業 - 新型出生前診断の広がる社会のゆくえを考える -
- 震災復興における自助と女性の負担 ~ 支援活動の視角から ~
- 支援の現場からみた児童虐待の現在 - 言説としての「世代間連鎖」を考える

令和5(2023)年度
授業時間割表



履修キャンパス

千代田キャンパス
※情報コミュニケーション専修

多摩キャンパス
※臨床社会学専修

※主な履修キャンパス。科目により履修キャンパスが異なります。

修士課程

情報コミュニケーション専修

臨床社会学専修

学位

修士課程：修士(社会学)

取得可能な免許・資格

教育職員専修免許状

本学大学院研究科の修士課程を修め、修士の学位を有し、教育職員免許法に定める所定の条件を満たした方は、専修免許状を取得することができます。

※1種免許状未取得の方も、科目等履修生制度を利用することにより、専修免許状取得が可能です(ただし、免許状の取得には3年以上かかります)。

高等学校教諭専修免許状(情報)

専門社会調査士

詳しくは一般社団法人社会調査協会ホームページ(https://jasr.or.jp/)をご確認ください。

お問い合わせ

情報コミュニケーション専修
臨床社会学専修
TEL: 042-372-9970



Voice

現代社会研究専攻 臨床社会学専修 修士課程 2年
岩佐 夏海さん



将来のビジョンが明確になる 修了生の活躍を知り

大学院生活は、学部生のときとはまた異なる研究の面白さに出会う日々です。本大学院の魅力である少人数制だからこそ先生方との深い対話から、想像もしなかった視点や根拠に基づいた鋭いご意見をいただき、自分の思考パターンや固定観念に気づくことも。また、千代田と多摩キャンパスどちらの図書館も利用し、多彩な専門分野の蔵書に触れることは広範囲なテーマを扱う社会学を研究する上でのアドバンテージであり、視野の広がりを感じます。この豊かな学びを、研究テーマである女性の主体に関する表象と実践の関係性の考察に生かしていきたいです。現在は、専門社会調査士の資格取得に向けた勉強も進めつつ、リサーチ関連業界への就職を考えています。就職支援センターや先生方から修了生の方々の進路先を教えていただき、直接お話を伺う機会もあるため、修了後の具体的なイメージを描くのに役立っています。

教員紹介

☆の教員は研究指導担当

情報コミュニケーション専修

- 小野 茂 教授** ☆
情報基礎科学
ネットワーク産業を中心に産業のダイナミズムを企業単位で分析。産業の発展過程における企業間関係の役割を明確にし、企業戦略や産業政策などへの知見を得る。
- 小谷 敏 教授** ☆
現代文化論
[修士課程専攻主任] マスコミュニケーションの基礎理論と歴史的研究。ポピュラーカルチャー、若者や子どもの文化についての研究指導を行う。
- 齊藤 豊 教授** ☆
国際経済学、ICT人材の国際労働力移動論
情報通信技術があらゆる職業分野に浸透する過程における産業構造の変容や職業構造の変化などの研究を行う。
- 炭谷 晃男 教授** ☆
コミュニケーション論、情報社会論、情報社会学
現代の情報社会におけるデジタルディバイドやメディア・情報の社会関係にもたらず問題の解明を行う。
- 田中 清 准教授** ☆
サービスシステム、メディア情報処理
若者にも高齢者の方にも使いやすい、適切なデバイスやメディアを用いた新しい情報サービスについて研究する。新しいオンラインライブや情報アシストサービスを具体化する。
- 堤 江美子 教授** ☆
図学
現代社会における3次元空間の構築や写実的表現方法について、2次元・3次元に表現された3次元形状の認識・理解の様相について研究する。

- 藤村 考 教授** ☆
情報可視化、データマイニング
現代社会において膨大な情報の中から必要な情報を抽出し、情報を視覚的に表現していく技術を研究する。特に新しい情報可視化手法の提案を目指す。
- 干川 剛史 教授** ☆
公共圏論、情報社会論、ボランティア論、災害情報研究、地域再生論
現代社会の構造と変動過程を解明するための概念とキーワード(公共圏、公共性など)を課題に設定し研究を行う。
- 本郷 健 教授** ☆
情報教育、情報学
情報教育の目的や具体的な教育目標などを教育の本質的な観点から新たに掘り下げ、探求するとともに、その趣旨に沿った教材や指導法を研究・開発する。
- 山崎 志郎 教授** ☆
1940年代日本の産業金融政策、高度成長期から低成長移行期の産業政策
20世紀日本の経済史・経済政策史を政府機関や企業などの一次資料に基づき分析。戦時・戦後期における市場への政策介入から、現代経済の特質を解明する。
- 山田 幸三 教授** ☆
経営戦略論、経営組織論、企業家論
日本企業の新規事業開発の戦略と組織、ならびに伝統的な地場産業産地のビジネスシステム、アントレプレナーシップに関する理論的・実証的なテーマについて研究指導を行う。

臨床社会学専修

- 池田 緑 准教授** ☆
社会学(および国際社会学)、ポストコロナリズム研究、ジェンダー論
性差とジェンダー・セクシャリティに関わる諸問題、差別や権力関係に関わる諸問題、近代性の変容などを研究する。
- 伊藤 美登里 教授** ☆
社会学史、社会学理論、知識社会学
ドイツ社会学の学説史、ドイツ社会学理論、社会の構造変化に関する社会学理論ないし現代社会論などの研究。
- 牛山 美穂 准教授** ☆
文化人類学、医療人類学、質的調査法
文化人類学・医療人類学を専門にしている。日本と英国でアトピー性皮膚炎をテーマに聞き取り調査を行ってきた。よりよい医師-患者関係とはどういふものか、考えている。
- 尾久 裕紀 教授** ☆
精神保健、リスクマネジメント、臨床における法と倫理
精神保健、リスクマネジメント、臨床における法と倫理に関する研究指導を行う。日常の問題に目を向け、研究テーマに絞り込む過程を大事にしている。
- 久保田 滋 教授** ☆
政治社会学、都市社会学
現代社会における政治や集合的行為に関する社会学的研究。都市における社会関係、社会空間、文化現象に関する研究を理論的・実証的に行う。
- 藏野 ともみ 教授** ☆
社会福祉学、精神保健福祉学、ソーシャルワーク論
保健医療福祉領域におけるソーシャルワーク実践評価を基本に、ソーシャルワーク介入の効果測定とその方法について研究を行う。
- 阪井 裕一郎 准教授** ☆
家族社会学
家族・結婚をめぐる社会学研究について研究指導を行う。近代日本の家族・結婚に関する歴史社会学的研究や、事実婚など多様なパートナー関係や共同生活についての質的調査を行っている。
- 嶋貴 真人 教授** ☆
社会保障法
現代社会における社会保障制度(年金、医療保険)の在り方について、主として法務的なアプローチを用いながら考察していく。
- 丹野 真紀子 教授** ☆
社会福祉学、ソーシャルワーク論
医療福祉論とソーシャルワーク論に関する研究。社会福祉における実践と理論の融合について考え、医療現場や福祉実践現場にソーシャルワーク理論として活用する研究。
- 牧野 智和 教授** ☆
自己の社会学、教育社会学
メディア・テキストの分析を通して、社会がどのような「自己」であることを、どのような「心」「感情」を有することを求めているのかを考察する。
- 松本 早野香 准教授** ☆
社会情報学、コミュニティと情報技術
何らかの課題を抱える集団に着目し、それを社会学的に読解するための調査を行う。同時にその課題の部分的な解決を目指す情報技術について考察、提案する。
- 松本 康 教授** ☆
都市社会学
都市社会学、とくにシカゴ学派都市社会学の学史的、アーバンズム理論、都市住民の社会的ネットワークに関する計量的研究、都市圏の発展過程、都市文化政策に関する研究領域の指導を行う。

単位互換制度

大学院社会学分野の単位互換制度について

今日の学問の高度化と専門化の進展の中で、大学院にふさわしい高度な研究教育を実現するためには、各大学における改善努力とともに、多数の大学間の提携が、大きな効果を上げることが期待されています。社会科学諸分野の中でも、一つの大学において開講される授業科目数が比較的に少ない社会学分野においては、特に複数の大学間での単位互換制度の導入によって、大学院生に、より豊富な学習機会を提供することは、有益かつ必要な改革と考えられます。本学の現代社会研究専攻では、相互の交流と発展を目指して、社会学分野ならびにその関連分野の授業科目に関して、特別聴講学生の単位互換制度を設けています。この制度によって修得した単位は、10単位を超えない範囲で本学大学院における授業科目の履修により修得したものとみなすことができます。

»大学院社会学分野の単位互換制度に加盟している大学 (50音順)

京城大学大学院	人文社会科学研究科
駒澤大学大学院	人文科学研究科社会学専攻、グローバル・メディア研究科
埼玉大学大学院	人文社会科学研究科文化環境専攻
成蹊大学大学院	文学研究科社会文化論専攻
専修大学大学院	文学研究科社会学専攻
創価大学大学院	文学研究科社会学専攻
大正大学大学院	人間学研究科人間科学専攻
千葉大学大学院	人文公共学府人文科学専攻
中央大学大学院	文学研究科社会情報学専攻・社会学専攻
都留文科大学大学院	文学研究科社会学地域社会研究専攻
東洋大学大学院	社会学研究科
常盤大学大学院	人間科学研究科
日本女子大学大学院	人間社会研究科現代社会論専攻
日本大学大学院	新聞学研究科
法政大学大学院	社会学研究科社会学専攻
武蔵大学大学院	人文科学研究科社会学専攻
明治学院大学大学院	社会学研究科社会学専攻
明治大学大学院	政治経済学研究科政治学専攻、文学研究科臨床人間学専攻
立教大学大学院	社会学研究科社会学専攻
立正大学大学院	文学研究科社会学専攻
流通経済大学大学院	社会学研究科社会学専攻

(令和5年4月現在)

臨床的な態度と科学的思考力を備えた 臨床心理士・公認心理師を養成します

本専攻は、(公財)日本臨床心理士資格認定協会第1種指定大学院であり、同時に公認心理師受験資格を得るために必要な科目を履修できるカリキュラムを整えています。本専攻では、将来、「保健医療」「福祉」「教育」「司法・犯罪」「産業・労働」などさまざまな領域で、適切な支援と研究のできる有能な臨床心理士・公認心理師を育成します。精神分析的心理療法、来談者中心療法、分析心理学的心理療法、認知行動療法、家族療法などをバランスよく学習し、きめ細かいスーパービジョン体制のもとで豊富な事例を通して実践的に学びます。また、大学院修了後の教育体制が整っていることも大きな特色の一つとなっています。特に、本専攻では、心理療法とロールシャッハ法を中心とする投射法検査に習熟した力動的視点を持った人材を養成しています。

また、確かな就職実績があり、多くの修了生が臨床心理士、公認心理師として現場で活躍しています。

修士論文題目

- 心理療法におけるポジティブ感情の相互的感情調節プロセスモデル構築と実証的検討
- 現代青年期女性における適応的な自立についての一考察
-ロールシャッハ法のイメージカード選択を手がかりとして-
- 心理療法における笑いについての探索的研究
- 青年期心理臨床における初期中断に繋がる来談抑制要因
- 青年期の依存性についての研究
- 知的障害児・者のきょうだいが望む支援について -生育過程の語りから-
- 母親の子離れのプロセスについて
- 自傷行為に影響を及ぼす要因に関する臨床心理学的研究
- AEDP(加速化体験力動心理療法)におけるセラピストへの共感がクライエントの被共感体験につながるまでの過程

令和5(2023)年度
授業時間割表



本専攻ホームページ「専攻の活動情報」欄に、修士論文一覧、大学院生の学会活動などが紹介されています。大学院案内と併せてご確認ください。

臨床心理学専攻のホームページ



臨床心理学専攻 修士課程 2年
菅原 有梨さん



多様な実習や手厚い臨床指導を通じ
対人援助職で重要な学びが身につく

大学院の選び方の一つに、研究したいテーマに取り組める場があるかどうかということがあります。私は精神分析について学びたかったため、精神分析的心理療法が専門の古田先生の指導が受けられる本大学院を選択。また、研究室のある多摩キャンパスが、緑豊かで落ち着いて研究に集中できる環境にあることも選択理由の一つです。現在は、チーム医療の構成員の中で治療方針を決定する役割や患者の死など、ストレスフルな環境下にある精神科医の死生観研究に取り組んでいます。実習の機会も豊富で、付属の心理相談センターで初回面談に立ち会うインテーク陪席、精神科病院や適応指導教室などの学外実習、多領域の施設見学などを通じ、対人援助職を目指す上で大切な学びを吸収しています。修了後はスーパービジョン(臨床指導)や院生同士での意見交換を通じて培った考える力を、医療分野の心理職で役立てたいです。

- 履修キャンパス
多摩キャンパス
 - 学位
修士課程：修士(心理学)
 - 取得可能な免許・資格
臨床心理士(受験資格)
- 詳しくは公益財団法人日本臨床心理士資格認定協会ホームページ(<http://fjcbcp.or.jp/>)をご確認ください。
- 公認心理師(受験資格)
- 詳しくは厚生労働省ホームページ(<https://www.mhlw.go.jp/>)をご確認ください。
- 専門社会調査士
- 詳しくは一般社団法人社会調査協会ホームページ(<https://jasr.or.jp/>)をご確認ください。

お問い合わせ
臨床心理学専攻
TEL:042-372-9970

本専攻の特徴

大きく分けて基礎分野と専門分野、研究指導、臨床指導、そして卒業教育から成り立っています。基礎・専門分野は臨床心理士、公認心理師受験資格取得に必要な科目を中心に構成されています。特に、ロールシャッハテストをはじめとする投射法や知能検査などの心理検査の習得に力を入れており、所見が書けるようになることを目標としています。研究指導は研究法に関する科目群と並行して、指導教員とほぼマンツーマンの修士論文指導を2年間にわたって毎週受けます。

さらに臨床指導は、修士課程1年次の後半から実際の事例を担当しはじめ、専任教員によるグループ・スーパービジョン、個人スーパービジョン、非常勤スーパーバイザーによる少人数のスーパービジョン、親子並行面接などにおける事例担当者同士の事例検討会、院生全員と複数教員が同席してのケースカンファレンス、ロールシャッハテストを中心とする心理査定ケースカンファレンスと手厚い指導体制が組まれています。

卒業教育は修了後の1・2年間、研究員として心理相談センターの事例を担当することができ、同時にスーパービジョンも受けられます。その後も必要に応じて相談協力員として心理療法を続けることもできます。また、さらにその後もグループ・スーパービジョンなどに参加でき、これらを通じて臨床心理士、公認心理師資格取得後も真の専門家として自立できるようになるまで、手厚い指導が受けられます。

学会活動などについて

本専攻では、大学院生に学会活動などへの参加を積極的に奨励しています。たとえば、日本心理臨床学会への参加や研究発表、その他、各種学会のワークショップへの参加などです。また、大学学部でのTA(ティーチング・アシスタント)になることをすすめています。

豊富な学外・学内実習による臨床研修

2年間を通じ学外実習は精神科病院および精神科クリニックと子ども関連施設(教育センター、適応指導教室、子ども病院など)を含む平均3カ所、学内実習は子ども、母親、青年、成人のケースなど含めて1人平均3・4ケース担当

- 01 少人数の大学院生に対する専任教員・非常勤教員による手厚いスーパービジョン体制
- 02 ロールシャッハ・テストをはじめとする心理検査の訓練に力を入れており、修了までに全員がかなり精密な所見書を書けるレベルに達するカリキュラム
- 03 2020年から2022年の3年間に修了した現役受験生は臨床心理士、公認心理師ともに合格率100%を達成。心理相談センターでは模擬試験など受験サポートも行っている
- 04 整った卒業教育体制(研究員・相談協力員制度など)
- 05 他大学出身者も多数在籍

実習のプロセス

2023年度より一部の科目名が変更になります。詳しくは、臨床心理学専攻のホームページをご覧ください。

	大学院の実習系科目	学内実習 心理相談センター 実習の準備	学外実習 実習の準備		
1年目	M1前期	ロールプレイ 臨床心理実習I(心理実践実習) インテーク・カンファレンスへの参加 カンファレンスへの参加 実習ガイダンス 倫理教育	施設見学 プレイルーム体験 心理相談センター紀要の閲覧	先輩から実習先に関する情報提供 実習先に関する事前学習 見学実習	
	審査に合格すると心理相談センターの「実習生」として登録される				
	夏休み	臨床心理基礎実習 他大学院との試行カウンセリング	スーパービジョン(専任教員) 実習(ケース担当)	実習(ケース担当以外) 受付実習(先輩の補助) 電話実習(先輩の補助)	見学実習 療育センターEAPなど 臨床実習(通所)
	M1後期	ロールプレイ 臨床心理実習II インテーク・カンファレンスでの発表 学内実習スーパービジョン(専任教員) 学外実習スーパービジョン(専任教員) 学外実習巡回指導(専任教員)	カンファレンスでの発表 カンファレンスでの発表 学外実習スーパービジョン(専任教員)	インテーク面接の陪席 ナースリー(きょうだい面接) プレイセラピー(個人) 心理療法(個人) 心理検査(質問紙法/知能検査/投射法) 臨床心理士・公認心理師によるケース検討会	教育支援センター 療育センター 精神科病院 見学実習 児童相談所・教育センターなど
	M2前期	臨床心理特別実習I インテーク・カンファレンスでの発表 学内実習スーパービジョン(非常勤講師) 学外実習巡回指導(専任教員)	カンファレンスでの発表 カンファレンスでの発表 学外実習スーパービジョン(専任教員) ロールシャッハ・グループスーパービジョン	実習(ケース担当)	臨床実習(通所)
2年目	夏休み	臨床心理特別実習I 学内実習スーパービジョン(非常勤講師) 学外実習巡回指導(専任教員)	学外実習スーパービジョン(専任教員)	受付実習(先輩の指導) 電話実習(先輩の指導)	臨床実習(通所)
	M2後期	臨床心理特別実習II インテーク・カンファレンスでの発表 学内実習スーパービジョン(非常勤講師) 学外実習巡回指導(専任教員)	カンファレンスでの発表 カンファレンスでの発表 学外実習スーパービジョン(専任教員) ロールシャッハ・グループスーパービジョン	実習(ケース担当)	臨床実習(通所)
	審査に合格すると心理相談センターの「研究員」として登録される				
3年目	研究員	研究・臨床活動 スーパービジョン(非常勤講師)	実習(ケース担当) ケースの継続 プレイセラピー(個人) 心理療法(個人) 心理検査(質問紙法/知能検査/投射法)	臨床実習(通所)	
4年目	相談協力員	研究・臨床活動 スーパービジョン(専任教員) スーパービジョン(非常勤講師)	実習(ケース担当) ケースの継続 面接(親子並行面接) 大学院実習生・研究員の指導	臨床実習(通所)	

教員紹介

☆の教員は研究指導担当

臨床心理学専攻

- 春日 文 専任講師** ☆
臨床心理学、生涯発達心理学
母子関係や歌いかけ・歌唱活動の研究、子育て・孫育て支援や緩和ケア領域における心理学的援助に関する研究に取り組む。人の発達・加齢に寄り添いながら、家族・地域へと広がりを持つ支援のあり方についての研究・指導を行う。
- 香月 菜々子 教授** ☆
臨床心理学、分析心理学的心理療法、投射法/描画法
思春期・青年期・成人期のクライエントおよびその家族に対する心理療法、また、投射法・投射描画法を中心とした心理アセスメントと成長促進的なフィードバックをテーマに、研究および実践指導を行っている。
- 田中 優 教授** ☆
社会心理学
対人関係、特に、親密な対人関係における互恵的相互依存関係に関する理論研究、および、実践研究を行う。複線経路等至性アプローチ(TEA)による質的研究、多変量解析による量的研究による修士論文指導を行っている。
- 福島 哲夫 教授** ☆
分析心理学的心理療法、統合・折衷的心理療法
心理療法に関する量的・質的研究の実施。特に統合的心理療法の視点からのプロセス研究などに力を入れている。

- 古田 雅明 教授** ☆
臨床心理学、精神分析的心理療法
精神科領域で精神分析のアプローチによる臨床実践。臨床心理士・公認心理師の初期教育法の開発と職業的専門性の発達に関連する量的・質的研究を行っている。
- 堀 洋元 准教授** ☆
社会心理学
大規模災害時などにおける避難所運営に役立てるため、防災シミュレーションゲームを開発し、その実証研究や避難所となりうる施設での防災対策について調査研究を行っている。
- 本田 周二 准教授** ☆
社会心理学
友人関係に関する量的・質的研究を行っている。主に友人関係の機能や主観的幸福感、レジリエンス、キャリア成熟に与える影響について青年期から成人期までのデータを収集し、研究している。
- 八城 薫 教授** ☆
社会心理学
人間の行動、特に自己や対人関係に関わる社会的行動について、内的・外的要因から実証的に予測・説明する調査研究を行う。最近では、マインドフルネスやアニマルセラピー、大学生のキャリア教育などに関する研究にも関わっている。

入学者の受入れに関する方針 (アドミッション・ポリシー)

大妻女子大学大学院は、すでに修得した知識や技術をより一層深めて、広く社会と専門領域に貢献する意欲の高い人、また、多様な経歴や独創的な研究課題をもった人を幅広く求めている。各専攻が求める人は、以下のとおりである。

- 1) 人間生活科学専攻は、環境、衣、食、住、行動、子育て、心理、健康などの人間生活に関わる実践的な研究を通じて、高度な職業能力を身につけたい人。
- 2) 言語文化学専攻は、言葉と文化を深く研究する中で、自己を形成し、広く社会に貢献していこうとする意思を強くもっている人。
- 3) 現代社会研究専攻は、現代におけるエイジングおよびケア、生きづらさ・暴力とジェンダーに関わる社会問題、情報やコミュニケーションの歴史的な展開およびその仕組みに関わる問題を、基本から応用まで真摯に学びたい人。
- 4) 臨床心理学専攻は、さまざまな臨床領域において適切な援助、介入および研究のできる専門家になろうという志を強く持ち、共感的理解および論理的思考のできる、社会的スキルを備えた人。

人間生活科学専攻

<修士課程>
人間生活科学専攻は、人間生活に関わるさまざまな企業や研究所、行政機関などの高度な職業能力を必要とする分野において活躍するために不可欠の基礎的な素養と応用的能力を涵養することを目的としている。この専攻は健康・栄養科学、生活環境学、保育・教育学の各専修からなる。各専修では複数の専修にまたがる問題についても学際的に探求できる人材を視野に入れており、次のような志望者を望んでいる。

- 1) 環境・衣・食・住・行動・子育て・心理・健康などの人間生活に関わる研究を通じて高度な職業能力を身につけたい人
- 2) 生活者として生活素材に興味をもち、それらの研究・開発の専門家を目指す人
- 3) 人間の発達と行動のダイナミズムを研究し、その研究成果と得られた専門的能力を職業人として活かしたい人
- 4) 発達・発達と臨床の視点から、子どもや子どもの文化、子育てについて理解を深め、障害を支援することに携わりたい人
- 5) 職業に就きながら、生活科学に関する実践的な研究を通じて、高度な職業人としての能力を高めた人

<博士後期課程>
人間生活科学専攻は、生活の主体である人間と生活に関するさまざまな分野を対象として、研究者として自立した研究活動を行うに必要な高度の能力及びその基礎となる豊かな学識を養うことを目的としている。人間生活科学専攻には、健康・栄養科学、生活環境学、保育・教育学の領域があり、それぞれの領域または、複数の領域にまたがる問題について生活する人間という立場から総合的な研究も行うため、次のような人を望んでいる。

- 1) 自立した研究者としての必要な基礎学力と研究に対する熱意を有する人
- 2) 自己の研究と社会の関係に深い関心を

- もつ人、すなわち、人間の生態、環境、行動、心理などについて研究する人
- 3) 修士課程を修了し、あるいはこれと同等の学力を有する人で、本学の人間生活科学の各領域に深い関心をもち、研究意欲をもつ人
- 4) 職業に就きながら、上記(1)・(2)に関連した研究を行い、自己の能力を高めていきたい人

言語文化学専攻

<修士課程>
言語文化学専攻は、言語と文学として結実する人間のあり様に、さらに文化的な視点を通じた複層的な事象を研究の対象としている。具体的な対象や領域は、自然発生的で単純にみえるものから技巧が加えられた精緻なもの、静的なものから動的なものまでさまざまである。なにがとほざけられ明らかになるか、それはどのような問いを発するかによる。問い方、そして答えをまとめる技法を身につけることで、成果を世に問うことができる。そして成果だけでなく、問い方、答えのまともな社会の共有財産となる。みずみずしい感性をもち、ことばと文化を深く研究する中で自己を形成し、広く社会に貢献していこうとする以下のような強い意志の持主を望んでいる。

- 1) 日本文学や日本語を深く研究したい人
- 2) 日本文学や日本語の深い理解力を身につけたい人
- 3) 日本語の実践力を高めたい人
- 4) 日本の歴史や文化を文学から考え直したい人
- 5) 知的で洗練された英語が読める英語のエキスパートを目指す人
- 6) 外国語習得理論を深く理解し、専門性の高い英語教員を目指す人
- 7) 言語学的な観点から英語のしくみと動きを知り、高度な英語のコミュニケーションに役立てたいと思っている人
- 8) 文学作品の専門的研究を通して人間や社会、文化のあり方について理解を深めたいと考えている人
- 9) 国際的視野で問題発見、問題解決に取り組みたい人
- 10) 自らの興味に基づく研究により、本質を見抜く能力を身につけたい人
- 11) 仮説を立て論証する研究能力を身につけ、実務に活かしたい人
- 12) 本質を具えた説得力ある提案ができるようになりたい人

<博士後期課程>
言語文化学専攻修了者は、文学・言語・文化を中心とした専門性、文学教育・言語教育や国際文化・日本文化に対する知見、国際的視野に立つ多文化理解力とコミュニケーション能力などを保持した人材が社会から求められているため、学校教育現場のみならず、社会教育にかかわる諸機関、出版・放送などのメディア関係での活躍が期待できる。そのような人材を養成するために、次のような人を望んでいる。

- 1) 日本文学や日本語を専門的に研究したい人
- 2) 日本の文化や歴史を文学から専門的に研究したい人
- 3) 日本文学や日本語に対する深い専門性をもって国際的に活躍したい人
- 4) 英語を言語学的観点から科学的・体系的に研究したい人
- 5) 英語文学作品やその他のさまざまなテ

- キストを文化的・社会的文脈の中で読み解く能力をもち、文体的感性を高めたい人
- 6) 言語学や文学の素養を生かし、英語教育を多角的に研究したい人
- 7) 異文化コミュニケーションおよび国際メディア・コミュニケーションに関する高度な研究能力を身につけたい人
- 8) 国際的視野から日本文化を捉え、最新の比較文化の理論を踏まえて独創的な研究を推し進めたい人
- 9) 仮説を立て論証する研究能力を駆使して、本質を具えた説得力ある提案ができるようになりたい人

現代社会研究専攻

<修士課程>
現代社会研究専攻は、現代社会そのものを動かしていく重要な要因となる情報通信技術が引き起こす多様な現象を主たる研究対象とする情報コミュニケーション専修と、現代の深刻な社会問題の背景に潜在しているジェンダーとエイジングに関わる問題を対象とする臨床社会学専修から構成されているため、次のような人を望んでいる。

- 1) 現代社会の動態に関して、社会科学の観点から考えようとする意欲をもっている人
- 2) 現代の情報通信技術のあり方について、根本的に再検討しようという意欲をもっている人
- 3) 現代社会におけるジェンダー問題が引き起こす社会現象に関心をもっている人
- 4) 現代の人々の生と死の問題が引き起こす社会現象に関心をもっている人
- 5) 大学院での専門的な学習成果を現実社会の中で活用したいという意欲をもっている人
- 6) 実際に、現代社会の中で活用している自己の職業能力を今以上に向上させたい人

臨床心理学専攻

<修士課程>
科学的思考と臨床的な態度を身につけ、臨床心理学的アセスメント、心理面接、地域援助の理論と技法を修得し、「保健医療」「福祉」「教育」「司法・犯罪」「産業・労働」などさまざまな領域で、適切な援助、介入及び研究のできる心理臨床の専門家を養成するため、次のような人を望んでいる。

- 1) 基礎的な心理学の知識を備え、論理的思考のできる人
- 2) 共感的理解のできる人
- 3) 成熟した社会的スキルを備えた人

教育課程の編成及び実施に関する方針 (カリキュラム・ポリシー)

大妻女子大学大学院は、人間の生活と文化全般に関して、広い視野と学際的・総合的な視点に基づいた理論的・専門的・実践的な高度の教育と研究を行うことにより、社会関係資本の重要性が増す21世紀の社会をリードできる人材を養成するため、人間文化研究科に、人間生活科学専攻(修士課程・博士後期課程)、言語文化学専攻(修士課程・博士後期課程)、現代社会研究専攻(修士課程)、臨床心理学専攻(修士課程)を置き、以下の方針に基づいてカリキュラムを編成している。

1. 修士課程では、学士課程で得た成果を

- より幅広く発展させ、深い学識と人格を涵養するとともに、新しい専門的な知識と技術を批判的に修得して、自己の専門分野における研究能力と高度な職業能力を養うための教育・研究指導を行う。
2. 博士後期課程では、修士課程での成果をさらに深化発展させ、より高度な専門的知識・技術を駆使して、広く人間の生活と文化全般に関わる諸問題を真摯に追求し、自立した研究活動の成果を挙げることができる人材養成のための教育・研究指導を行う。
3. そのために、各専攻の核となる教育課程の編成方針を以下のとおりとする。

人間生活科学専攻

<修士課程>
柱となる学問分野として、「健康・栄養科学専攻」、「生活環境学専攻」、「保育・教育学専攻」の3領域を設定する。「健康・栄養科学専攻」では、医療、福祉、公衆衛生、初等・中等教育における食育などを担う専門家の養成、食品や医療分野での技術開発を担う高度な知識をもった人材の養成、および個人あるいは集団の健康のあり方について総合的に研究する研究者の養成のため、「栄養化学分野」「食品・機能学分野」「調理科学・食嗜好学分野」「医療・保健栄養学分野」にそれぞれ必要な科目を配置する。「生活環境学専攻」では、衣環境、住環境、生活環境、地域環境、地球環境およびこれらを含む生活を含め、それらのサイエンス、マネジメント、デザインの研究・教育を行い現代社会における専門知識の高度化に対応できる高度専門職職業人ならびに研究者養成のため、「環境サイエンス分野」「環境マネジメント分野」「環境デザイン分野」にそれぞれ必要な科目を配置する。

「保育・教育学専攻」では、子どもから大人まで人生の各発達段階における保育・教育に関わる諸問題について、臨床的な視点を重視し、その本質や背景要因の解明に積極的に取り組みながら、理論的・実践的な問題解決能力を身につけると同時に、保育・教育の分野を持つ高い見識を身につけた高度な専門性をおよび実務者、保育者養成者、研究者の養成のために、「基礎教育分野」「保育・教育分野」「心理・社会・文化分野」にそれぞれ必要な科目を配置する。

<博士後期課程>
柱となる学問分野として、「健康・栄養科学専攻」、「生活環境学専攻」、「保育・教育学専攻」の3領域を設定する。「健康・栄養科学専攻」では、「栄養化学分野」「食品・機能学分野」「調理科学・食嗜好学分野」「医療・保健栄養学分野」にそれぞれ必要な科目を配置し、人間の生涯にわたり、個人あるいは集団の健康のあり方について研究するとともに、健康を増進するための諸要因について、総合的・学際的な観点から究明することができる研究者を養成するための教育・研究指導を行う。

「生活環境学専攻」では、「環境サイエンス分野」「環境マネジメント分野」「環境デザイン分野」にそれぞれ必要な科目を配置し、衣環境、住環境、生活環境、地域環境、地球環境およびこれらを含む生活における基本的問題を明らかにし、それぞれを改善推進するための具体的な課題を解決するための教育・研究を行う。これらの研究を通して、人間の生活と諸環境とのかわり方について、総合的かつ学際的な観点から探求できる研究者を養成する。

- 「保育・教育学専攻」では、「基礎教育分野」「保育・教育分野」「心理・社会・文化分野」にそれぞれ必要な科目を配置し、教育、保育、家庭等実際の生活が行われる場において、具体的な環境と関わる人間の行動を、心とからだに関する成長・発達と、その背景としての諸要因について研究する。また、人間の生涯における健全な発達と、それを支えているメカニズムについて、保育・教育の各学問領域において発達や臨床等の視点から追求し、それを発展させる指導法を目指し、それぞれの研究領域において、理論的、実践的な研究と指導に従事できる高度な知識・技術と研究能力を備えた実務者、保育者養成者、研究者を養成するための教育・教育を行う。

言語文化学専攻

<修士課程>
柱となる学問分野として、「日本文学専攻」、「英語文学・英語教育専攻」、「国際文化専攻」の3領域を設定する。「日本文学専攻」では、「古典文学分野」「近代現代文学分野」「日本語学分野」にそれぞれ必要な科目を配置し、日本古典文学と日本近代現代文学および日本語学についての専門教育を行う。文学作品に対する高度な読解・解釈に基づき、日本文学および日本語の生成と発展を研究するとともに、学際的知識の拡充にもつとめ、新たな研究への適応ができる研究者を養成するための研究・教育を行う。

「英語文学・英語教育専攻」では、多様化する国際文化を展望しつつ、文学と言語を切り口として英語文化の伝統と現在を対象とする研究と教育を推進する研究者養成のため、「英語文学分野」「英語教育分野」「英語学分野」にそれぞれ必要な科目を配置する。「国際文化専攻」では、進展する国際化の中で多文化を対象とする研究と教育を推進して高度専門職業人および実践的研究者を養成するため、「コミュニケーション文化分野」「国際分野」にそれぞれ必要な科目を配置する。

<博士後期課程>
柱となる学問分野として、「日本文学専攻」、「英語文学・英語教育専攻」、「国際文化専攻」の3領域を設定する。「日本文学専攻」では、「古典文学分野」「近代現代文学分野」「日本語学分野」にそれぞれ必要な科目を配置し、日本古典文学と日本近代現代文学についての専門教育を行う。文学作品に対する高度な読解・解釈に基づき、日本文学の生成と発展を研究するとともに、学際的知識の拡充にもつと

- 「保育・教育学専攻」では、「基礎教育分野」「保育・教育分野」「心理・社会・文化分野」にそれぞれ必要な科目を配置し、教育、保育、家庭等実際の生活が行われる場において、具体的な環境と関わる人間の行動を、心とからだに関する成長・発達と、その背景としての諸要因について研究する。また、人間の生涯における健全な発達と、それを支えているメカニズムについて、保育・教育の各学問領域において発達や臨床等の視点から追求し、それを発展させる指導法を目指し、それぞれの研究領域において、理論的、実践的な研究と指導に従事できる高度な知識・技術と研究能力を備えた実務者、保育者養成者、研究者を養成するための教育・教育を行う。

言語文化学専攻

<修士課程>
柱となる学問分野として、「日本文学専攻」、「英語文学・英語教育専攻」、「国際文化専攻」の3領域を設定する。「日本文学専攻」では、「古典文学分野」「近代現代文学分野」「日本語学分野」にそれぞれ必要な科目を配置し、日本古典文学と日本近代現代文学および日本語学についての専門教育を行う。文学作品に対する高度な読解・解釈に基づき、日本文学および日本語の生成と発展を研究するとともに、学際的知識の拡充にもつとめ、新たな研究への適応ができる研究者を養成するための研究・教育を行う。

「英語文学・英語教育専攻」では、多様化する国際文化を展望しつつ、文学と言語を切り口として英語文化の伝統と現在を対象とする研究と教育を推進する研究者養成のため、「英語文学分野」「英語教育分野」「英語学分野」にそれぞれ必要な科目を配置する。「国際文化専攻」では、進展する国際化の中で多文化を対象とする研究と教育を推進して高度専門職業人および実践的研究者を養成するため、「コミュニケーション文化分野」「国際分野」にそれぞれ必要な科目を配置する。

<博士後期課程>
柱となる学問分野として、「日本文学専攻」、「英語文学・英語教育専攻」、「国際文化専攻」の3領域を設定する。「日本文学専攻」では、「古典文学分野」「近代現代文学分野」「日本語学分野」にそれぞれ必要な科目を配置し、日本古典文学と日本近代現代文学についての専門教育を行う。文学作品に対する高度な読解・解釈に基づき、日本文学の生成と発展を研究するとともに、学際的知識の拡充にもつと

臨床心理学専攻

<修士課程>
科学的思考と臨床的態度を身につけ、心理臨床の専門的な能力を培い、適切な援助、介入及び研究ができる人材を育成するために、「臨床心理学基礎分野」「臨床心理学専門分野」「臨床心理学実践分野」にそれぞれ必要な科目を配置する。

博士後期課程

課程の修了には、2年以上在学し、所定の授業科目について30単位以上を修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上、本学の行う修士論文の審査および最終試験に合格することを要します。なお、教育研究に必要な場合は、本学大学院の他の専攻の授業科目を履修し、8単位を限度として、これを修士課程の単位にすることができます。

- 「保育・教育学専攻」では、「基礎教育分野」「保育・教育分野」「心理・社会・文化分野」にそれぞれ必要な科目を配置し、英米を中心とする英語文学、英語教育、英語学について高度な専門教育を行う。最新の多様な文学理論、言語理論、言語習得・教育理論を踏まえ、独創的な研究を推進することによって学問文化の向上発展に寄与する研究者の育成を図る。「国際文化専攻」では、「コミュニケーション文化分野」「国際日本文化分野」にそれぞれ必要な科目を配置し、複雑化し流動化する世界情勢の中で、国際的視野に立つコミュニケーション文化と比較文化について高度な専門教育を行い、現代の国際間における諸問題の解決を図り、学問文化の向上発展に寄与する研究者および高度専門職業人の育成を図る。

現代社会研究専攻

<修士課程>
柱となる学問領域として「情報コミュニケーション専修」と「臨床社会学専修」の2領域を設定する。「情報コミュニケーション専修」では、情報についての高い専門知識を身につけた人材の養成と、高等学校教科「情報」を担当する教員のステップアップを目的とする。そのため「情報」と「メディア」の史的発展と、インターネットに代表される多様な情報の仕組みを科学的に把握し、「情報」を収集・分析・統合する能力を獲得するため、「基礎理論分野」「社会・経済と情報分野」にそれぞれ必要な科目を配置する。

「臨床社会学専修」では、社会学のみならず医学・介護学・看護学・教育学・心理学・福祉学・法学など学際的研究によってのみ解明し得る領域の研究を理論的かつ実践的に進める。そのため、いのちの文化の再生・創出を目指す「生と死の臨床分野」、性・差別・暴力などの概念から社会を考える「ジェンダー臨床分野」、現代社会の理論的理解と分析・調査能力を養う「現代社会理論・社会調査分野」にそれぞれ必要な科目を配置する。

臨床心理学専攻

<修士課程>
科学的思考と臨床的態度を身につけ、心理臨床の専門的な能力を培い、適切な援助、介入及び研究ができる人材を育成するために、「臨床心理学基礎分野」「臨床心理学専門分野」「臨床心理学実践分野」にそれぞれ必要な科目を配置する。

最終試験

最終試験は、論文を中心とし、これに関する研究領域について、口述試問、筆記試験によって行います。

- 具体的には以下のように教育課程を編成する。
- 1) 臨床心理学的なアセスメント、臨床心理面接、臨床心理的地域援助の基礎的知識および技法を身に付けることができるように科目を配置する。
- 2) 上記の研究に関する専門的知識及び量的・質的研究法を含む技法を身につけることができるように科目を配置する。
- 3) 心理臨床の専門家に求められる「保健医療」「福祉」「教育」「司法・犯罪」「産業・労働」「心の健康教育」等の多様な領域に関する理論とその実践に関する科目を配置する。

ディプロマ・ポリシー

<修士課程>
日本と英米の文学と言語を中心とした専門領域と、広く東アジアやヨーロッパに及ぶ文化領域にかかわる研究・教育を基盤として、近年内外で展開する政治、経済、文化の流動化を見据えながら、洋の東西にまたがる国際情勢と文化の動態を柔軟に取り込むの枠組を確立し、実践する能力を身に付けている。

博士後期課程

言語文化学専攻(修士課程)における日本文学・日本語学、英語文学・英語教育、国際文化の専門領域の研究・教育をさらに深化発展させ、内外で加速度的に流動化する社会・文化の動態を読み解き、多様化し先鋭化する研究分野の動向や理論の展開に柔軟かつ強靱に対応して、自立した研究活動の成果を挙げる能力を身に付けている。

現代社会研究専攻

<修士課程>
高度情報社会が要請する情報分野もしくは臨床社会学分野の専門的知識と技能を基礎にして、現代社会が提起する複雑な諸問題の解決に主体的に取り組む学術的基盤と実践的能力を獲得し、実社会に貢献する能力を身に付けている。

臨床心理学専攻

<修士課程>
科学的思考と臨床的態度に加え、将来、臨床心理士、公認心理師として働くのに必要な、臨床心理学的なアセスメント、臨床心理面接、臨床心理的地域援助及びそれらの研究に関する専門的な知識および量的・質的研究法を含む技法を修得し、適切な援助、介入及び研究を行う能力を身に付けている。

- 博士後期課程>
人間生活科学専攻(修士課程)における健康・栄養科学、生活環境学、保育・教育学専修の専門領域の研究・教育をさらに深化発展させ、高度な専門的知識・技術を駆使して、広く人間の生活現象に関わる諸問題を真摯に探求し、解決する能力を身に付けている。

言語文化学専攻

<修士課程>
日本と英米の文学と言語を中心とした専門領域と、広く東アジアやヨーロッパに及ぶ文化領域にかかわる研究・教育を基盤として、近年内外で展開する政治、経済、文化の流動化を見据えながら、洋の東西にまたがる国際情勢と文化の動態を柔軟に取り込むの枠組を確立し、実践する能力を身に付けている。

博士後期課程

言語文化学専攻(修士課程)における日本文学・日本語学、英語文学・英語教育、国際文化の専門領域の研究・教育をさらに深化発展させ、内外で加速度的に流動化する社会・文化の動態を読み解き、多様化し先鋭化する研究分野の動向や理論の展開に柔軟かつ強靱に対応して、自立した研究活動の成果を挙げる能力を身に付けている。

現代社会研究専攻

<修士課程>
高度情報社会が要請する情報分野もしくは臨床社会学分野の専門的知識と技能を基礎にして、現代社会が提起する複雑な諸問題の解決に主体的に取り組む学術的基盤と実践的能力を獲得し、実社会に貢献する能力を身に付けている。

臨床心理学専攻

<修士課程>
科学的思考と臨床的態度に加え、将来、臨床心理士、公認心理師として働くのに必要な、臨床心理学的なアセスメント、臨床心理面接、臨床心理的地域援助及びそれらの研究に関する専門的な知識および量的・質的研究法を含む技法を修得し、適切な援助、介入及び研究を行う能力を身に付けている。

学費・奨学金

学費 (令和5年度実績)

● 修士課程(一般選抜、学内選考、外国人留学生入学試験)

(円)

	人間生活科学専攻		言語文化学専攻		現代社会研究専攻		臨床心理学専攻	
	本学卒業(見込)者	左記以外	本学卒業(見込)者	左記以外	本学卒業(見込)者	左記以外	本学卒業(見込)者	左記以外
入学手続時納入金合計	393,600	563,600	373,600	543,600	383,600	553,600	384,280	554,280
上記以外にかかる在学時納入金合計	1,167,200	1,167,200	1,107,200	1,107,200	1,137,200	1,137,200	1,137,200	1,137,200

● 修士課程(社会人特別選抜)

長期履修学生制度を出願時に希望した方は、合格通知書により適用を認められた履修年数欄の入学手続時納入金合計となります。(円)

	人間生活科学専攻					
	2年履修		3年履修		4年履修	
	本学卒業者	左記以外	本学卒業者	左記以外	本学卒業者	左記以外
入学手続時納入金合計	393,600	563,600	272,150	442,150	208,600	378,600
上記以外にかかる在学時納入金合計	1,167,200	1,167,200	1,304,050	1,304,050	1,382,850	1,382,850

	言語文化学専攻					
	2年履修		3年履修		4年履修	
	本学卒業者	左記以外	本学卒業者	左記以外	本学卒業者	左記以外
入学手続時納入金合計	373,600	543,600	258,650	428,650	198,600	368,600
上記以外にかかる在学時納入金合計	1,107,200	1,107,200	1,237,550	1,237,550	1,312,850	1,312,850

	現代社会研究専攻					
	2年履修		3年履修		4年履修	
	本学卒業者	左記以外	本学卒業者	左記以外	本学卒業者	左記以外
入学手続時納入金合計	383,600	553,600	265,150	435,150	203,600	373,600
上記以外にかかる在学時納入金合計	1,137,200	1,137,200	1,271,050	1,271,050	1,347,850	1,347,850

● 博士後期課程(一般選抜)

(円)

	人間生活科学専攻		言語文化学専攻	
	本学修了(見込)者・本学卒業者	左記以外	本学修了(見込)者・本学卒業者	左記以外
入学手続時納入金合計	344,300	514,300	324,300	494,300
上記以外にかかる在学時納入金合計	1,726,900	1,726,900	1,626,900	1,626,900

- (注) ・修士課程の本学卒業(見込)者とは、大妻女子大学および大妻女子大学短期大学部卒業(見込)者です。
 ・博士後期課程の本学修了(見込)者・本学卒業者とは、大妻女子大学大学院修士課程修了(見込)者・大妻女子大学および大妻女子大学短期大学部卒業者です。
 ・実験・実習にかかる費用(材料費、実習費等)は入学後実費を納入していただきます。
 ・毎年度若干の変動の可能性があります。その他、学費の詳細については学生募集要項をご確認ください。

奨学金制度

奨学金の種類	貸与月額		
	第一種(無利子)	第二種(有利子)	
日本学生支援機構奨学金 高度の研究能力を有し、経済的に修学困難と認められる者に貸与されます。 ※返還の義務あり	修士課程	5万円、8万8千円	5万円、8万円、10万円、13万円、15万円から選択
	博士後期課程	8万円、12万2千円	
大妻女子大学大学院奨学金 成績優秀である者に貸与されます。 ※返還の義務あり	貸与月額		
	修士課程	5万5千円(無利子)	
大妻女子大学育英奨学金 学業・人物ともに優れ、かつ、学費の支弁が困難な者に給与されます。 ※返還の義務なし	給与月額		
	修士課程	自宅	自宅外
学校法人大妻学院特別育英奨学金 学業・人物ともに優れ、かつ、学費の支弁が困難で、勉学意欲の高い者に給与されます。 ※返還の義務なし	給与月額		
	修士課程	2万円	
一般財団法人 大妻コタ力記念会育英奨学金 学業・人物ともに優れ、かつ、学費の支弁が困難で、勉学意欲の高い者に給与されます。 ※返還の義務なし	給与月額		
	修士課程	2万円	
	給与月額		
	博士後期課程	2万円	

私費外国人留学生の授業料等減免制度

私費外国人留学生で修士課程または博士後期課程に入学を許可された者のうち、経済的に困難な事情のある者については、特別の審査を経て学生納付金を減額または免除することがあります。詳細は学生募集要項をご確認ください。(お問い合わせ/国際交流支援グループ)

大学院研究生制度

大学院を修了した後、さらに精深な研究を続けようとする者に対しては、大学院研究生の制度があります。大学院研究生は、大妻女子大学大学院奨学金の制度を利用できます。

入学試験・進学説明会日程

令和6(2024)年度 入学試験日程

● 修士課程

入試種別	人	言	現	臨	出願期間(郵送必着)	試験日	合格発表日	入学手続締切日(郵送・当日消印有効)
学内選考	●	●	●	●	7月6日(木)~7月12日(水)	7月22日(土)	7月28日(金)	8月3日(木)
社会人特別選抜	●	●	●	●				
一般選抜I期	●	●	●	●	9月15日(金)~9月21日(木)	10月7日(土)	10月12日(木)	10月18日(水)
外国人留学生入学試験I期	●	●	●	●				
一般選抜II期	●	●	●	●	1月11日(木)~1月18日(木)	2月17日(土)	2月21日(水)	2月28日(水)
外国人留学生入学試験II期	●	●	●	●				

人=人間生活科学専攻 言=言語文化学専攻 現=現代社会研究専攻 臨=臨床心理学専攻

● 入学定員(男女共修)

専攻	人数
人間生活科学専攻	12名
言語文化学専攻	8名
現代社会研究専攻	6名
臨床心理学専攻	6名

● 博士後期課程

入試種別	人	言	出願期間(郵送必着)	試験日	合格発表日	入学手続締切日(郵送・当日消印有効)
一般選抜	●	●	1月11日(木)~1月18日(木)	2月17日(土)	2月21日(水)	2月28日(水)

人=人間生活科学専攻 言=言語文化学専攻

受験希望者は、本学ホームページに掲載されている授業科目の概要などを熟読し、志望専攻・専修の特徴についてよくご理解の上、出願してください。

● 入学定員(男女共修)

専攻	人数
人間生活科学専攻	3名
言語文化学専攻	3名

進学説明会

進学説明会は下記日程で行います。最新の情報は本学ホームページでご確認ください。また、出願までに進学説明会に参加するようにしてください。進学説明会に参加できない場合は、個別相談に参加して専攻への理解を深めてください。

専攻	日程	時間	開催場所	
人間生活科学専攻	【第1回】6月2日(金)	16:30~	千代田キャンパス	
		18:00~		
	【第2回】12月18日(月)	16:30~		
		18:00~		
言語文化学専攻	【第1回】6月15日(木)	17:00~ ※	千代田キャンパス	
		18:00~		
現代社会研究専攻	【第1回】5月26日(金)	12:20~	オンライン	
		【第2回】6月2日(金)		12:20~
		【第3回】6月23日(金)		18:00~
		【第4回】12月1日(金)		12:20~

個別相談

右記より、各専攻の教員による個別相談が可能です。お問い合わせなどもこちらから気軽にご連絡ください。



大妻女子大学大学院では、大学卒業だけでなく、指定された専修学校の専門課程を修了した方、大学院において個別の入学資格審査により認められた方(短大や専門学校を卒業した方であっても、社会における実務経験や取得した資格などが本学において認められれば、大学院受験資格が与えられます)にも門戸を開いています。詳細は広報・入試センター(TEL:03-5275-0404)までお問い合わせください。

大妻女子大学大学院

人間文化研究科

[お問い合わせ]

千代田キャンパス 広報・入試センター

TEL:03-5275-0404

≫受付時間

平日8:30~16:40、土曜日8:30~13:10

多摩キャンパス 教育支援・学事グループ

TEL:042-372-9970

≫受付時間

平日8:50~17:00、土曜日8:50~13:30



[大学院ホームページ]



[アクセス]



[大学院入試情報]



メールでの
お問い合わせは
こちらから ▶

